

意見一覧

		意見
全体		特に目標に達していない行動目標について、その目標に係る取組をそのまま継続するのか、改善の必要があるのかについて審議会で議論する必要があるのではないかと思います。ただ、議論するとしても、取組欄に記載されている内容では検討しにくいと思います。
		啓発に関する事業について、「・・・を行った」や実施回数、参加者数などが記載されていますが、啓発の対象や内容を具体的に書く必要はないでしょうか？

	取組項目	意見
目標に対する状況		「別紙資料8参照」と記載したほうがわかりやすいと思います。
	A ごみ等排出量の状況	「小型家電を含む粗大ごみが256トン」となっていますが、資料8からすると「257トン」となっています。どちらが正しいのでしょうか。
		「汚れた容器包装プラスチックを燃やすごみに出されている可能性がある」ということですが、燃やすごみも減少しているので、それ以上に事業系ごみの適正排出の影響が大きいということを明記したほうがいいのではないのでしょうか。

	取組項目	意見
A ごみ等排出量を減らす取組	1 市民一人ひとりのごみ減量への行動を促す仕組みづくり	継続した情報の提供がなされており、ごみの減量化につながっていると思われる。今後は広報紙以外での啓発も検討してみてください。
		H29年度よりも掲載回数が減少している。今後のごみ減量への行動につながるように、毎月継続して情報の提供がなされるように努めていただきたい。
	2 食品ロス削減の推進	県立大学での啓発や飲食店・宿泊施設での啓発など食品ロス削減の啓発がなされている。忘年会シーズンなど効果が高そうな時期に引き続き啓発をしていただきたい。また、フードバンクひこねの取組についても啓発が必要ではないか。
		夜の飲食店への推進は評価します。しかし、平日・土日祝日昼間の活動をしている主婦視点からは企業側の努力を知らない。見えない。コンビニやスーパー、ランチタイムの飲食店でも啓発活動を行ってほしい。
		県立大学には今までどおり啓発活動を続け、他大学の学園祭にもチラシを配布してはどうか。彦根に居住している学生も多いと思う。学生生協にもチラシを掲示依頼してはどうか。
		多面的な取り組みがなされている。今後も継続して取り組まれない。
3 マイバッグ持参の推進	レジ袋無料配布の中止の取組が進んでいる。さらに無料配布の中止に賛同する事業者を増やしていけるよう検討していただきたい。	
	レジ袋無料配布事業者の店舗数は増加している。今後も継続して取り組まれない。	

A
ごみ等排出量を減らす取組

4 地域への出前講座の拡充	昨年度に引き続き出前講座への参加者が減少しているが、啓発イベントへの参加者は増加している。引き続き参加者が増加するよう検討していただきたい。
	出前講座の開催数を増やしてほしい。
	地域への出前講座拡充では、大半が自治会等の成人が対象と思われませんが、出来れば小中学生等にも機会を捉えて、子供のうちから、しっかりごみ問題等の教育が必要と思われます。
	学校のPTA(幼稚園、保育園、小学校、中学校)の研修会等に入れていただく。新年度が始まるまでの2月頃に出前講座の案内を送付、人の入れ替わりがあるため2・3年に1回送る。また、自治会にも2月頃に出前講座の案内をする。要望を待つのではなく攻めていく。PTA、自治会ともに3月には年度の予定を組むので、送付地域を決めて案内を送る。
	出前講座の開催数や参加者数は減少している。今後、工夫して取り組まれない。
5 エコマーケットなどのリユース情報の提供	フリーマーケットなどのリユースへの取組を積極的に情報提供していただきたい。
	フリーマーケットの開催数を増やしてほしい。
	フリーマーケットについては、開催団体からの依頼待ちではなく、市からの開催呼びかけを広報などでされてはいかがか。
6 リユース食器の普及促進	昨年度は広報紙での啓発を実施された。マイ箸、マイカップの普及啓発も行っては。
	今後も継続して取り組んでいただきたい。
7 粗大ごみのリユースに向けた取組の検討	清掃センターへ持ち込まれた粗大ごみのリユースなど検討できないか。
	「実施できていない」という記述のみでは意見を出しにくいです。実施できなかった理由が「今後の取組」欄に記載されているので、これを取組状況として記載してはいかがでしょうか。
	市が管理しているリユース店や場所がほしい。現状のお店は少し怖いイメージを受ける。
	検討自体がされていないのは、問題である。今後、先進事例の情報収集を踏まえ、市としての取組を検討されたい。
8 紙類の再生利用の促進	事業所への啓発、収集運搬業者への搬入物検査などしっかり取り組んでいる。
9 容器包装プラスチックの混入防止啓発指導の徹底	事業所への啓発、収集運搬業者への搬入物検査などしっかり取り組んでいる。
	今後も継続して取り組んでいただきたい。
10 事業系食品リサイクルの促進	三方よしフードエコ推奨店が増加している。推奨店の取組の紹介を積極的に行っていただきたい。
	多人数での忘年会に参加しないので、「30・10運動」を知らない。
	今後も継続して取り組んでいただきたい。

A ごみ等排出量を減らす取組	11 スーパー等店舗での古紙・衣類回収の推進	店舗での回収量が着実に増えている。排出時のマナーなども啓発されている。
		スーパー等店舗における古紙や空き缶回収ブースを目にすることが増えたが、近所の店舗にないのが残念。全店舗であればとても便利。
		今後も継続して取り組んでいただきたい。
	12 レジ袋無料配布中止の推進	レジ袋無料配布の中止の取組が進んでいる。さらに無料配布の中止に賛同する事業者を増やしていけるよう検討していただきたい。
		レジ袋無料配布中止の推進は必要ですが、レジ袋は商品の持ち運びや生ゴミの処理で便利なものでもあります。レジ袋は必要最小限の使用とし、その捨て方をルール付けし、ポイ捨てさせないことの方策が重要です。
		レジ袋削減の取組事業者を増やす。最近すごく増えている薬局(ユタカ、スギ、アオキなど)では買い物の種類別に袋詰めしてくれる。また、コンビニなど、要らないのにおしぼりなどが付いてくる。コンビニなど対応マニュアルの中に、レジ袋、スプーン、箸、おしぼりが必要か聞いていただくよう滋賀県の地域本部に彦根市のごみの減量取組をお願いする。新規の店舗がどんどん増えているので、取組事業者を増やさなければレジ袋は削減できない。
		今後も継続して取り組んでいただきたい。なお、無料配布禁止が、容器包装リサイクル法改正として法制化される予定なので、国の動向も注視されたい。
	13 搬入時の確認強化	搬入物検査により違反件数は減少しているが、検査の実施回数が減っている。
		越境ごみ対策の強化で、清掃センターへの搬入時に身分証明書の確認などにより、ごみ排出元の確認を行っていると言われていますが、その結果、越境ごみの過去と現状の推移を記載してほしい。越境ごみはなくなったのでしょうか。
		今後も継続して取り組んでいただきたい。
	14 料金体系の見直し	市内で持ち込みできる処理場はとても助かる。料金も安くて驚いている。手数料はもう少しアップしても問題ないと思う。
		消費税率引き上げ後の10月1日から、粗大ごみ40kgまでの金額が100円から200円で2倍、20kgごとが400円から500円で1.25倍、2%アップどころではない。施設の補修整備、彦根市の予算から出ないのか。不法投棄増えないか心配します。
		今後も継続して取り組んでいただきたい。

B 再生利用率を上げるための取組	15 新しい資源化技術導入の検討	水銀含有製品を確実に分別回収できるよう啓発を進めていく必要がある。 今後も継続して取り組んでいただきたい。
	16 草木・剪定枝・流木などの資源化の推進	草木・剪定枝の堆肥化量が増えている。今後も引き続き進めてほしい。
		草木・剪定枝の資源化は、31年4月からおこなわれておらず、31年度は、875tの焼却量やその焼却灰が増えるので、その対策は、急務です。搬入方法(剪定枝のみとする・人件費を削減する・搬入日時での削減で受入量を減量する・排出者に処理費用の一部を負担してもらう)等見直し、再度資源ごみとして清掃センターへの受け入れの検討や排出者が民間施設へ持ち込みする場合は助成も検討すべきではないでしょうか。
		剪定枝・流木などの堆肥化を続けてほしい。循環化リサイクルに適している。リサイクルにかかる費用、労力を考えると、分別収集費用がかかる。リサイクルの妨げとなるものの混入がないように啓発して続けてほしい。
		今後も継続して取り組んでいただきたい。
	17 近年分別を開始した資源物のリサイクルの推進	小型家電、使用済蛍光灯等の資源化を進めるためにも分別回収の啓発が必要。 今後も継続して取り組んでいただきたい。
18 雑がみリサイクルの推進	菓子箱等の雑がみは燃えるごみとして出している人が多いと感じるので、リサイクルを進めるため、さらに啓発を進めていく必要がある。	
	出前講座の実施や、雑がみ回収量の把握も検討されたい。	
19 集団回収の継続的な実施	自治会などの集団回収が減少している。奨励金の交付を継続するとともに啓発にも力を入れていく必要がある。	
	自治会での回収に奨励金が交付されているのは知らなかったのも、もっと積極的にご近所さんへリサイクル活動を啓発しようと思った。	
	今後も継続して取り組んでいただきたい。	
C 焼却量を減らすための取組	20 (リサイクル可能な)紙ごみの排出方法や分別方法の周知	菓子箱等の雑がみは燃えるごみとして出している人が多いと感じるので、リサイクルを進めるため、さらに啓発を進めていく必要がある。
		出前講座の実施や、紙ごみ回収量の把握も検討されたい。
	21 簡易生ごみ処理の普及促進	簡易生ごみ処理機の保有世帯が着実に増加している。引き続き啓発を行っていただきたい。
		今後も継続して取り組んでいただきたい。
	22 簡易生ごみ処理でできた堆肥の利用方法の検討	堆肥化した肥料を利用できれば、生ごみ処理機の普及にもつながると考えられる。利用先の確保も大切だと考える。
		今後も継続して、利用先拡大に取り組んでいただきたい。

D 最終処分量を減らすための取組	23 埋立ごみ選別の継続的な実施	分別することにより、資源化できる廃棄物が増える。分別回収の普及啓発を行い、最終処分場に埋め立てるごみを減らしていく必要がある。
		今後も継続して取り組んでいただきたい。
	24 焼却灰資源化の継続的な実施	安全性を確保しながら資源化を進めてください。
		今後も継続して取り組んでいただきたい。